

館長コラム 『自然体験』



4月、三瀬公民館玄関前の枝垂れ桜に、なにやら動くものを見つけました。近づいてみると小さい2匹のメジロでした。たぶんまだ若いつかいでしょうか。枝から枝へぴよんぴよんと飛び移っています。なんともかわいらしいしぐさで、つい見入ってしまいました。

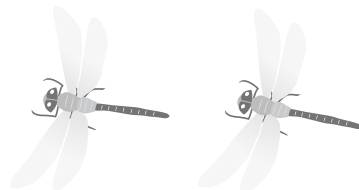
思えば子どもの頃から豊かな自然の中で様々な生き物たちと接して心を躍らせていました。虫・魚・鳥・動物…様々な生き物との出会いや自然の中での体験がどれだけ私の心を高鳴らせてきたことでしょうか。今でもはつきりと覚えているのは小学生の時のヤマトンボ(オニヤンマ)捕りです。なんとか手に入れたいの、メスのヤマトンボです。オスより一回り大きな体を持ち、しっぽの先がぴんととがっているかっこいいメスです。通常空を飛んでいるヤマトンボを捕まえることは到底できませんが、唯一チャンスがあるときは産卵時です。ちよろちよろと流れる小川の溜水の場所が産卵場所であり、しっぽの先を水の中につんつんと刺し卵を産みつけていきます。そーっと近づき、産卵に夢中になっているその時に、虫取り網をかぶせて捕まえます。虫取り網がないときは、竹ほうきか菜種をとった枯れ枝を束ねたものでそっと抑え込みます。その力加減なんとも難しいものです。せっかく捕まえてもヤマトンボの羽が折れたりすると全く価値がなくなるからです。捕えたヤマトンボの羽と羽の間に糸を通して結び、ヤマトンボを肩あたりに止まらせてたり歩きながら飛ばしたりとまるで子犬のペットのように遊んでいました。また、飛ばしながらすぐさま近づいて交尾するオスを手で捕まえることも容易にできました。

その後も実に様々な自然体験が私の心をワクワクさせてくれました。山道で車のライトに照らされ、すーと立っているハクビシン、雪道に三点の足跡を残している野ウサギ、3匹のウリボウを連れた母猪、道の真ん中で威嚇してくるボスと思われるオスサル、北海道で出会ったキタキツネ、鹿など。

私は、こうした自然の中での生き物との出会いや様々な体験は、人の心を穏やかにし、ストレスを解消させる大きな要因ではないかと思っています。生物としての人間が健やかに育っていくには、こうした自然体験がどうしても必要だと思うのです。

県内の学校に37年間勤務させていただいており、そこで多くの子どもたちと接しています。不登校・荒れ・不適応等々、各学校では年々課題が増えてきているようですが、その一つの要因として、子どもたちの自然体験の減少があるのではないかと思っています。

そこで、学校だけでなく公民館事業の中でも、子どもたちと命のあるものとのふれあい・自然体験の機会をつくっていかれたらと思っています(自然いっぱいの中で暮らす三瀬の子どもたちには、あてはまらないかもしれませんが…)。



市立図書館三瀬館からのお知らせ

三瀬館には19種類の雑誌があります。本と同じように2週間の貸出しができます。ぜひ手に取ってごらんください。他館にある雑誌の取り寄せをすることもできます。

今年の読書週間イベントは休館のため開催できませんでしたが、開館後には本を借りた人に手づくりの「箸置き」のプレゼントをしました。

6月末には「七夕飾り」をする予定です。願い事を短冊に書いて飾ってください。



7月の行事予定

7日(火)	自治会長会定例会	支所会議室
8日(水)	行政人権相談	公民館
14日(火)	三瀬地区民生児童委員会	支所会議室
27日(月)	地域ケア会議	三瀬保健センター

三瀬館の雑誌紹介

- 『週刊文春』
- 『九州じゃらん』
- 『一個人』
- 『明日の友』
- 『LIVES』
- 『暮らしの手帖』
- 『婦人公論』
- 『Mart』
- 『リンネル』
- 『レタスクラブ』
- 『non-no』
- 『STORY』
- 『NHKきょうの料理』
- 『GetNavi』
- 『やさい畑』
- 『剣道時代』
- 『こどものとも年少版』
- 『ね〜ね〜』
- 『nicola』